

第2回奈良県地域福祉推進計画策定委員会 議事概要

日 時：平成30年12月18日（火） 13：00～14：30□

場 所：奈良県文化会館 多目的室

出席者：（委 員）永田委員長、八木委員長代理、奥村委員、片山委員、黒松委員、小西委員、
田尻委員、辻村委員、中委員、中島委員、早瀬委員

（奈良県）林福祉医療部長、岡野福祉医療部次長、山田地域福祉課長 ほか 関係課等

1. 福祉医療部長挨拶

2. 議 事

（1）第1回奈良県地域福祉推進計画策定委員会でいただいたご意見・対応案

（2）奈良県地域福祉計画改正（案）について

①計画の施策体系（大綱・アクションプログラム）

②アクションプログラム（次期計画）

・事務局から資料に基づき説明した後、各委員から、以下の意見等があった。

| 項目 | 発言者 | 意見の概要 |
|---------------------|------|--|
| 基本理念 | 片山委員 | 「安心して暮らす」というのは主観的なものなので、客観的な表現として、「安心・安全に暮らす」との表現にしてはどうか。 |
| | 八木委員 | 読む人が分かり易く理解できるようにすることは大事だが、どういう言葉で書くかは難しい。他の部分で「安全」を入れて、計画を整えてもよいのではないか。 |
| | 奥村委員 | 理念は具体的にしすぎると、他の要素で展開しづらくなってしまふ。「安全」については具体的な要素に入れてはどうか。 |
| 大綱 2-3 | 中委員 | 「2目指す地域の姿」「3福祉を支える人づくり」だけ、目標ではなく手段となっている。 目標として書くのであれば「社会参加の機会の確保」となり、「1社会的包摂と社会参加の機会の確保」と分割すべきではないか。 |
| 大綱 3-5 | 中委員 | 「3地域の地域福祉の推進」「5地域福祉を支える共通基盤を整備します」の意味が伝わりにくい。説明文において「住民の支え合い活動を支援します」となっているが、これでは行政が主体として動かず、住民だけが行うように伝わってしまう。 |
| アクションプログラム | 中島委員 | 住民の方が課題解決に向けて協議する場を、安心して課題を出せる場にしていくとともに、その課題を受け止める場づくり大事。 生活支援サービス等の充実の項目にあるように、研修も重要だが、課題を受け止める体制づくりやCSWを支援する仕組みづくりをお願いしたい。 |
| アクションプログラム 1-1-③ | 奥村委員 | 高齢者は、様々な経験をこれまでされてきて、まだまだ地域で活躍して頂けると思うので、いろいろな施策でつながっていけばと思う。 |
| アクションプログラム 1-1-⑤ | 黒松委員 | 避難行動要支援者名簿については、名簿の作り方が粗雑であったり、更新が出来ていないことで、活用できていないと感じている。 訓練や教育の場がないと実際に一緒に動けない。防災に関しては支える側と支えられる側のどちら側にもなりうるので、いろんな人に意識を持ってもらわないといけない。 |

| 項目 | 発言者 | 意見の概要 |
|---------------------|------|---|
| アクションプログラム 2-1-③ | 早瀬委員 | ボランティア人口が高齢化により減少している。ボランティアが地域住民に協力を求めるにあたり知識が必要で、認知症キャラバンやあいサポーターのように地域住民で支えていけるようにしていく事が目標。 |
| アクションプログラム 3-1 | 中委員 | それぞれの施策に横串をどう刺すのかが見えてこない。「①包括的な相談・支援体制の構築」において、多分野・多機関の連携としての庁内連携等具体的な取組が読み取れない。 |
| アクションプログラム 3-1-① | 奥村委員 | 横串をさしていくのはいろいろと難しいところもあるかとは思いますが、キーワードで連携を図れる部分があったり、チームワークで解決を目指していく事が必要だと考える。 |
| アクションプログラム 3-1-④ | 片山委員 | 権利擁護について、成年後見の利用促進に向けた3年間の取組内容を示して欲しい。 |
| アクションプログラム 3-1-⑧ | 片山委員 | 子育て世代、妊産婦も視野に入れてもらいたい。 子ども達がそういう心をもって接することができるようなまちづくり、そういうものを醸成するというような文言を含めてもらいたい。 |
| | 辻村委員 | すべての人にやさしい福祉のまちづくりに関して、思いやり駐車場だけでは寂しいので、バリアフリー化等もう少し力を入れて書いて欲しい。 |
| | 八木委員 | 地域での孤立を作らない、社会参加の機会を作ることにに関して、自助と共助では限界があると感じている。やはり公助も大事で、きちんと計画に書いて市町村への働きかけを行ってほしい。 避難しようとしても、避難所が車いすが使えないトイレであったり、公民館のバリアフリー化がされていないことで地域の祭りや行事に参加出来ないこともある。 |
| | 田尻委員 | 公助が大事だという話について、エスカレーターやホームドアの設置など高額な費用がかかるものについては、県や国が先頭に立って整備を後押ししていく必要があるが、授乳スペースの確保など費用をかけなくても出来ることもある。 |
| パブリックコメント | 中委員 | パブリックコメント前に案を示してもらえるのか。 |

(3) 今後のスケジュールについて

- ・事務局から資料に基づき説明